

第37回大阪の医療と福祉を考える公開討論会



大阪府医師会は10月31日に「第37回大阪の医療と福祉を考える公開討論会」を開催しました。今回のテーマは「うちのじいちゃん認知症になってしまった——認知症とのつきあい方・家族の対応」。架空の事例に基づき、大阪府民の皆さんと「認知症との向き合い方」について考えました。

まずは本会の伯井俊明会長があいさつ。高齢化に伴って認知症は増加するため、「その対応が喫緊の課題」と訴えました。そして、認知症を含めた疾患を支えるための国民皆保険制度がもっとも大切であるとし、皆さんとともに守り抜くとの決意を示しました。



公開討論は、毎日放送アナウンサーの古川圭子氏の司会で開会。シンポジストとして「かかりつけ医」の立場から井口和彦氏（井口クリニック院長／旭区）、「専門医」の立場から久堀保氏（くぼりクリニック院長／住之江区）、「介護・福祉」の立場から古川とし子氏（城東区地域包括支援センター管理者）、大阪府医師会から阪本栄理事が登壇したほか、ゲストとして毎日放送アナウンサーの上泉雄一氏が発言しました。

当日は、①アルツハイマー型認知症、②レビー小体型認知症、③前頭側頭型認知症——について、架空の事例を提示し、パネリスト達が専門的な立場から、疾患の解説や家族の対応などについて意見を述べました。井口氏は「まず、かかりつけ医に相談を」と促し、久堀氏からはそれぞれの認知症の特徴を説明しつつ、家族が接する際には「気持ちを尊重して寄り添って」とアドバイスがありました。古川氏・阪本理事からは、介護保険制度や国の認知症対策などの説明があり、上泉氏からは「今日の話聞いて安心した」とのコメントがありました。



大阪府医師会では、来年度も興味深い話題を取り上げ、公開討論会を実施いたします。大阪府医師会の活動にご支援・ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。